

季節が変る。然し、自然のうつろいにもまして、社会の変化の方が速やかであるように見える。昨日のニュースはもう影を潜め、今朝の事件は夕刻には既に衝撃力を失なう。そして、何よりも目に著しいのは、それらを伝える「言葉の衰弱」である。言葉からはもう意味がはがれてしまっているのに、無理やり仕様ことなしにそれらを引きずって、何かを

伝えようという、「身振り」だけが騒々しい。そんな言葉に囲繞されて、賑々しくニュース種子にされる子どもたちを見ていると、しみじみ、「子ども受難の時代」だと思わされてくる。実体としての子どもの置かれている不幸にもまして、メタレベルの虐待が目に見える。形骸化した「言葉たち」を子どもから取り除いてやる試みが、必要とされているのかも知れない。

江戸時代に、周期的にくり返された

「おかげまいり」の群れには、いつも、夥しい数の子どもが含まれていたという。しかも、彼らの殆んどが、家人の制止をかえりみず、家をとび出して、伊勢へ向かったらしい。中には、子守りして、赤ん坊を背負ったまま列に加わったものもあるという。

「おかげでさ するりと」

抜けたとき

子どもたちは、単調なリズムにあわせて声を張り上げつつ、草履を引きずりつつ歩き続けたのだ。憑かれたように……。

大人たちの理解を拒むこの行動は、彼らの「身体」が、何にもまして、時代と文化への挑発者であり、反撃者であることを証している。私どもが、形骸化した言葉の意味ありげに取り繕って、あれやこれやと子どもらを囲いこむことに熱中している間に、彼らは、「するりと」抜け出し、未知へ向かって歩き出しているのではなからうか。

(H)

幼児の教育 第八十二巻 第九号

九月号 ©

定価三〇〇円

昭和五十八年 八月二十五日 印刷

昭和五十八年 九月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発行所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

●本紙御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします

*万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。